

巻頭言

5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、4 年ぶりに全学的にコロナ前の生活を回復していくことができ、生活に活気が戻ってくる 1 年であった。

5 類感染症への移行に伴う変化は各部大小様々あるが、まず記しておきたいことは日々の昼食を食堂に集まり揃っていただくことができるようになったことである。初等部では昼食時間の上下級生の交わりを通じ、子どもたちの成長が早速感じられた。家族のように共に集まり食事を共にすることの価値を再確認することができ、自由学園にとっての大きな喜びであった。

女子部・男子部は 2024 年度の共学化を前にした最後の 1 年となり、共生共学化に向けた様々な準備が、生徒・教職員の共同作業によって進められた。生活に密着する様々な検討は生徒中心に進めたために苦労も多かったことと思うが、係となった生徒を中心に根気よく取り組み、様々な場面で真剣な対話が重ねられた 1 年となった。この検討は今後もしばらくは続いていくことになる。

中高が全学で取り組む「探求」は、2023 年度は「自己探求」「テーマ探求」「自由探求」の 3 コースに再編され進められた。また様々な社会課題に取り組む「共生学」では、高等科 2 年生はその発展として、企業・団体に生徒が出向き学外で活動するインターンシップ制度「飛び級社会人」を開始した。これら学びの成果は 3 月に一般公開で行った「学びの共有会」で発表・共有された。3 年目に入った教科「TLP」は生徒の問題意識により迫るものとすべく「キリストを知る」「自由学園を知る」の 2 領域で実施された。

最高学部でも制限されていた活動が再開された。中でも、夏休み期間中にオランダで開催された世界体操祭には最高学部学生有志 23 名が参加し、充実した演技発表と言語の壁を超えた交流を行うことができた。60 か国、約 19000 人、487 チームが集まり、日本からは 12 チームが参加した。学部生から、体操を通じた友情・平和づくりを実感したという声が聞かれた。初の取り組みとしては 4 年生 1 名が、授業料全額免除の EU 奨学金エラスムスプラスのプログラムにより、3 か月半、ポーランドのポメラニアン大学に留学する機会を得た。

インターンシップ活動を行った際の商品開発から出発した学部生によるベンチャー企業が、学生の手により正式な会社「きみとなり」として設立された。高等部の生徒も巻き込みつつ活動を進めていることも、うれしいことである。

教育活動ではないが、11 月 3 日にキリスト教学校教育同盟の第 65 回学校代表者協議会が自由学園を会場に行われた。57 学校法人から 96 名が参加。後藤田典子先生による礼拝、資料室村上民さんと高橋が、「自由学園創立 100 年のあゆみとこれから 建学の精神と学校アーカイブズの役割」と題する講演を行った。同盟加盟校の先生方と交流を深め、自由学園をご理解いただくよい機会となった。

学園長 高橋和也